



タイムスケープ理論

科学がビッグバン宇宙論から脱却しようとする
2025年の試み。

目次

1. 🕒 タイムスケープ理論

1.1. 🟡 疲れた光理論の仮面

1.2. 🟡 赤方偏移のドップラー解釈

1.3. 🟡 疲れた光理論

2. 😬 ビッグバン理論への疑問で追放

👤 科学ライター、エリック・J・ラーナー

3. アインシュタインの「改宗」：信者への道

3.1. アインシュタイン改宗をめぐるメディアの過熱

3.2. アインシュタインの継続的な拒絶

3.3. アインシュタインの謎の失踪論文

3.4. アインシュタインの謎の失踪論文

3.5. なぜ？

3.5.1. 科学的進歩

3.5.2. 「神の御業」論

4. 時間の始まり

4.1. カラム宇宙論的論証

4.1.1. 💬 議論

5. 結論

印刷日: 2025年11月22日

<https://jp.cosmicphilosophy.org/timescape-theory/>

第1.章

2025年の脱出試み

ビッグバン宇宙論

タイムスケープ理論：●疲れた光理論の仮面

🔭 CosmicPhilosophy.orgに発表された調査「ニュートリノは存在しない」が、ニュートリノが「 ∞ 無限分割可能性」からのドグマ的脱出試みであることを明らかにしてから1ヶ月後、世界中の科学雑誌や出版社にメールで送付したプレスリリースは、いくつかの丁寧な返答はあったものの拒絶と沈黙で応じられた。その中、科学メディアの見出しが「ダークエネルギーは存在しない」と報じ始めた。



(2024) ダークエネルギー「は存在しない」：拡大宇宙論への挑戦

出典: [Phys.org](https://www.phys.org) | Monthly Notices of the Royal Astronomical Society: Letters、第537巻第1号、2025年2月、L55-L60頁

- ▶ 新研究、ダークエネルギー理論を粉碎～ヤフーニュース
- ▶ ダークエネルギーの謎ついに解決 - 科学者が画期的な新理論を提唱～デイリーメール
- ▶ 科学者が画期的新理論を発表、ダークエネルギーの謎に突破口～GBニュース
- ▶ 「重大な帰結」：カンタベリー大学科学者がダークエネルギーで突破口～ラジオニューズランド

タイムスケープ理論

Monthly Notices of the Royal Astronomical Society Lettersに発表された新論文で、David L. Wiltshire教授率いる研究者Antonia Seifert、Zachary G. Lane、Marco Galoppo、Ryan Ridden-Harperは、「タイムスケープモデル」と名付けた新理論



を提案した。これは宇宙の加速膨張の兆候が、重力が宇宙の異なる領域での時間の流れに不均一に作用することで生じる「錯覚」であると示唆している。高密度の銀河領域と低密度の宇宙ボイド間の時間遅延の差異が、ダークエネルギーを必要とせずに加速膨張の印象を作り出すという。

グローバルメディアで新たな独立理論として提示される「タイムスケープモデル」理論は、実際には●疲れた光理論の核心概念を取り入れ、一般相対性理論の枠組みに組み込んだものである。

この新「タイムスケープモデル」理論が、1929年以来ビッグバン宇宙論の基盤に対する最初の主要な挑戦者である「疲れた光理論」の仮面と見なされるべき理由は以下の通り：

1. 両理論とも、観測された宇宙の加速膨張を説明するための標準 Λ CDM宇宙論モデルとそのダークエネルギー依存性に挑戦している。
2. 疲れた光理論は、遠方銀河からの光の●赤方偏移が宇宙膨張によるものではなく、中間空間との何らかの「相互作用」によるものだと提案する。
3. タイムスケープモデルは、観測された膨張が錯覚であるという疲れた光理論の核心的前提を取り入れ、それを一般相対性理論と重

力時間遅延の確立された原理に基づかせている。

- 異なる宇宙構造間での不均一な時間の流れが加速膨張の印象をどのように生み出すかを示すことで、タイムスケープモデルは疲れた光理論が明確な物理的メカニズムを欠いていた隙間を埋める。

「タイムスケープ」理論は、疲れた光理論への言及なしに宇宙論の基礎的変革要因として提案されており、これは疑問の余地がある。

疲れた光理論は、ビッグバン宇宙論の採用とドグマ的保護以来、広く拒絶され積極的に抑圧されてきた。

次の章では、タイムスケープ理論が、ビッグバン理論の元来の主要挑戦者である「●疲れた光理論」に対する数十年にわたる科学的-異端的抑圧から脱却しようとする科学の試みである可能性を明らかにする。

第1.2.章

●赤方偏移のドップラー解釈

ドップラー効果は単純な概念だ：電車が近づくにつれ、その警笛の音程は高く聞こえる。電車が通り過ぎて遠ざかると、警笛の音程は低く聞こえる。この音程変化はドップラー効果によるもので、今日では遠方銀河からの光がより長い、あるいは「より赤い」波長へシフトする理由を説明するために用いられている。

アメリカの天文学者Edwin Hubbleは1929年、●赤方偏移のドップラー解釈を用いて宇宙が膨張していると推論し、それと関連して宇宙がある時点で「宇宙卵」に圧縮されていたに違いないとした。これは中国、インド、コロンブス以前のアメリカ、アフリカ文化の伝統を含む諸文化の古代宗教的創世神話や聖書の創世記と一致する。これらはす

べて（明らかに寓話的に）明確な🕒時間の始まりを描いている——創世記の「六日間の創造」であれ、古代インドの文献『リグ・ヴェーダ』の「宇宙卵」であれ。

ビッグバン理論は当初「宇宙卵理論」と呼ばれ、カトリック司祭 Georges Lemaîtreによって聖書の創世記に沿って「昨日なき日」のために提案された。

今日の科学におけるビッグバン宇宙論では、宇宙卵は数学的特異点あるいは「潜在的な ∞ 無限大」を表す「原始原子」と呼ばれている。

赤方偏移のドップラー解釈はビッグバン宇宙論の基盤である。

第1.3.章

● 疲れた光理論

スイス系アメリカ人天文学者Fritz Zwickyは1929年、 ∞ 無限宇宙の概念に沿って観測された赤方偏移を説明する代替理論として「疲れた光理論」を提案した。

疲れた光理論の基本的前提は、赤方偏移が光が宇宙空間を移動する際にエネルギーを失うように見える未特定のプロセスによって引き起こされるというものだ。このプロセスはしばしば「光子疲労」または「光子老化」と呼ばれ、光子が宇宙を移動するうちに本質的に「疲れる」ことを意味する。

(2018) 疲れた光がビッグバンを否定

出典: [科学者 Ming-Hui Shao, Na Wang, Zhi-Fu Gao](#)

(2014) 疲れた光がビッグバン理論を論破



出典: [tiredlight.net](#)

疲れた光理論は科学的-異端的抑圧に直面した。使用される戦略の一つは、1929年の元理論の反証を利用することであり、支持者は近年数十年にわたり新疲れた光理論 (NTL) という名称を使用することでこれを回避しようとしてきた。

第2.章

追放

ビッグバン理論への疑問で

本記事の著者は2008-2009年頃からビッグバン理論の初期批判者であった。当時  Zielenknijper.com を代表して行った哲学的調査で、ビッグバン理論が彼が調査していた「 自由意志廃止運動」の究極的基盤と見なせることを明らかにしたためである。

ビッグバン理論の批判者として、著者はビッグバン批判に対する科学的-異端的抑圧を直接経験してきた。



2021年6月、著者はビッグバン理論に疑問を呈したことでSpace.comから追放された。その投稿では、同理論に挑戦するAlbert Einsteinの最近発見された論文について論じていた。

“ アインシュタインがベルリンのプロイセン科学アカデミーに提出したが謎の失踪を遂げた論文が、2013年にエルサレムで発見された...

(2023) アインシュタインに「間違っていた」と言わせる

アインシュタインがビッグバン理論の「信者」となった経緯の調査

出典: 第3.章

一部の科学者の間でビッグバン理論が宗教的な地位を獲得しつつあるという認識について議論したこの投稿は、いくつかの思慮深い反応を集めていた。しかし、Space.comで通常行われているように単に閉鎖されるのではなく、突然削除された。この異例の措置は、削除の背後にある動機に疑問を投げかけた。

モデレーター自身の声明「このスレッドは役目を終えました。貢献してくださった方々に感謝します。これで閉鎖します」は、実際にはスレッド全体を削除しながら、逆説的に閉鎖を宣言するものだった。著者が後でこの削除に丁寧な異議を申し立てると、対応はさらに厳しいものとなった——Space.comアカウント全体が禁止され、過去の投稿はすべて消去された。

学界では、ビッグバン理論を批判する研究を含む特定の研究が禁止されてきた。著名な科学ライターエリック・J・ラーナーは2022年に次のように記している：



「ビッグバン理論に批判的な論文を天文学の学術誌に発表することはほぼ不可能になった。」

(2022) ビッグバンは起こらなかった

出典: アート&アイデアズ研究所

第3.章



アルバート・アインシュタイン

ビッグバン理論の「信者」となった経緯の歴史的調査

アルバート・アインシュタインが ∞ 無限の宇宙理論を放棄し、ビッグバン理論の「信者」に改宗した理由についての公式説明および主要な主張の一つは、エドウィン・ハッブルが1929年に●赤方偏移のドップラー解釈（第1.2.章）を通じて宇宙が膨張していることを示したため、アインシュタインが自らの誤りを認めざるを得なかったというものである。

(2014) アインシュタインの失われた理論が描くビッグバンなき宇宙

出典: ディスカバー・マガジン

歴史を検証すると、公式説明は無効であり、アインシュタインが評価しなかったと見られる「信者への改宗」に関するメディアの過熱報道から直接派生したものであることが明らかになる。

ハッブルの発見から2年後、アインシュタインは自身の改宗に関するメディアの過熱報道と矛盾する科学論文で、ハッブルの名前を習慣的に誤記した。

アインシュタインの「宇宙論的問題について」(「*Zum kosmologischen Problem*」)と題された論文は謎の失踪を遂げ、後に巡礼の地エルサレムで発見された。一方、アインシュタインは突然「信者」に改宗し、ビッグバン理論を「宣伝」するため聖職者と共に全米ツアーに参加した。

アインシュタインがビッグバン理論の信者へと改宗するに至った経緯の概要：

第3.1.章

1929: アインシュタイン改宗をめぐるメディアの過熱

1929年以来、エドウィン・ハッブルの発見によりアインシュタインが「信者」に改宗したと主張する大規模なメディアの過熱報道が存在した。

「全米[アメリカ]の見出しが躍り、アルバート・アインシュタインが膨張宇宙の信者に改宗したと報じた。」

当時の1929年のメディア報道、特に大衆紙では「ハッブルの発見でアインシュタイン「改宗」」や「アインシュタイン、宇宙膨張を認める」といった見出しが使われた。

ハッブルの故郷の新聞スプリングフィールド・デイリー・ニュースは「オザーク山地を離れた青年[ハッブル]、星の研究でアインシュタインを翻意させる」と見出しを打った。

第3.2.章

1931: アインシュタインの継続的な拒絶

歴史的証拠は、アインシュタインが自身の「改宗」に関するメディアの過熱報道後の数年間、膨張宇宙理論を積極的に拒絶し続けたことを示している。

「ハッブルの発見から2年後——[アインシュタイン]は膨張宇宙理論の重大な欠陥を指摘した...これはアインシュタインにとって大きな懸念材料だった。...物理学者がその件についてアインシュタインに接近するたび、彼はその理論を退けた。」

第3.3.章

1931: アインシュタインの謎の失踪論文

1931年、アルバート・アインシュタインはベルリンのプロイセン科学アカデミーに「宇宙論的問題について」（「*Zum kosmologischen Problem*」）と題する論文を提出し、非膨張宇宙の可能性を許容する新たな宇宙論モデルを導入することで ∞ 無限の宇宙理論を発展させようとした。これは1929年以来の彼の「改宗」に関するメディアの過熱報道の主張と直接矛盾するものだった。

この論文は謎の失踪を遂げたが、2013年にエルサレムで発見され、アインシュタインはエドウィン・ハッブルの名前を習慣的に誤記しており、これは意図的に行われたに違いない。

第3.4.章

1932: アインシュタインの信者への改宗

論文が失踪した直後、アインシュタインはビッグバン理論の信者に改宗し、カトリック司祭と共に全米ツアーに参加してその理論を「宣伝」した。これは教会の影響が働いていた可能性を示唆している。



司祭ジョルジュ・ルメートルが1933年1月にカリフォルニアで開催されたセミナーで講演した後、アインシュタインは劇的な行動を取った——立ち上がり、拍手し、後に有名となる発言をした：「これは私がこれまで耳にした中で最も美しく満足のいく創造の説明である。」そして彼は自身の ∞ 無限の宇宙理論を生涯最大の過ちと呼んだ。

自身の「改宗」に関するメディアの過熱報道の中で何年も激しくビッグバン理論を拒絶し続けた後、聖職者と共に全米ツアーで積極的に宣

伝するという転換は、非常に深遠なものである。

アインシュタインの改宗はビッグバン理論の普及に決定的な役割を果たした。

第3.5.章

なぜ？

なぜアルバート・アインシュタインは自身の ∞ 無限の宇宙理論を「最大の過ち」と呼び、ビッグバン理論とそれに連なる「🕒時間の始まり」の推進者に改宗したのか？

アルバート・アインシュタインの改宗の歴史を調査することは、深遠な哲学的洞察への鍵を握っているかもしれない。なぜならアインシュタインは世界平和の活動家であり、彼の原稿「世界平和の理論」は国際連合の設立に先行しており、これは🦋 GMODebate.orgの🕊️ 平和理論に関する記事で探求されている。

もしアインシュタインが科学的真実から逸脱することを意識的に選択したのなら、その動機は何だったのだろうか？

明白な候補がいくつかあるにもかかわらず、この問いは予想以上に哲学的な深みを持つかもしれない。なぜなら科学は動機の根本的基盤としてのドグマの受容以上のことができないからである。

科学哲学者スティーブン・C・マイヤーは著書生命起源の謎で、ドグマ的・宗教的逸脱を意識的に支持する可能性のある主要な動機は、科学的進歩そのものであると記している。

格言：

「主要な問題は動機である。」

教会の影響の兆候があるにもかかわらず、個人的観点からアインシュタインの決断を導いた優先事項は、「神の御業」論の潜在的可能性に内在する知的怠惰の防止だったかもしれない。

逆説的に、宗教的な「時間の始まり」を受け入れることで、アインシュタインは科学的進歩を達成するという科学の主要な関心に応えることができたのである。

第4章

時間の始まり

哲学のための主張

2024年にAEONに掲載されたエッセイでは、「時間の始まり」という考えの背後にある哲学について論じており、この問題が哲学の領域に属することを明らかにしている。

(2024) 科学者たちは宇宙がビッグバンで始まったか確信を持たず

出典: [AEON.co](#)

科学がビッグバン宇宙論とそれに関連する「時間の始まり」を擁護する一方で、学問的な哲学は反対の立場を取り、時間に始まりがあると主張する宗教的な「カラム宇宙論的論証」に挑戦してきた。

哲学教授アレックス・マルパスとウェス・モリソンによるEndless and ∞ infiniteという論文に関するフォーラム討論で、ニューヨークの哲学教師が次のように主張した：

第4.1.1.章

カラム宇宙論的論証についての議論

🗨️ 終わりがなき ∞ 無限

Terrapin Station :

... T_n 以前に無限の時間があるなら、 T_n に到達することはできません。なぜなら T_n 以前の無限の時間を完了することは不可能だからです。なぜでしょうか？無限は到達したり完了したりできる量ではないからです。



...特定の状態 T に到達するために、それ以前に無限の変化状態がある場合、 T に到着することは不可能です。なぜなら T に到達するために無限を完了することはできないからです。

著者 :

あなたはカラム宇宙論的論証を擁護していますね。

Terrapin Station :

私は無神論者です。

著者 :

たとえあなたが自分を教皇だと主張しても、あなたの推論の妥当性を検討する際には何の違いもありません。

カラム論者があなたと全く同じ議論をした場合、それは違うのでしょうか？

論文「*Endless and ∞ infinite*」はPhilosophical Quarterlyに掲載された。その後継論文「*All the time in the world*」はOxford's Mind journalに掲載された。

(2020) 終わりなき ∞ 無限

出典: アレックス・マルパス教授のブログ

Philosophical Quarterly

Oxford's Mind journalでの
続編

第5.章

結論

「タイムスケーブ」理論は宇宙論の基礎的変革要因として提案されているが、●**疲れた光理論への言及がない**。タイムスケーブ理論が挑戦を志すビッグバン理論の起源の歴史を考慮すると、この点は疑問視されるべきである。



CosmicPhilosophy.org

<https://jp.cosmicphilosophy.org/>

印刷日: 2025年11月22日

その他のプロジェクト:

- ▶ [🦋 GMODEbate.org](https://gmodebate.org/): 優生学、科学主義、「哲学からの科学の解放」運動、「反科学」という言説、そして現代的な形の科学異端審問の哲学的基盤を調査するプロジェクト。